

平成21年度第2回 落合第一地区協議会の概要

日 時	平成21年5月12日(火) 午後7時00分～9時00分
場 所	落合第一地域センター3階 集会室
出席者	委 員 24名 特別出張所: 山本所長、川崎副所長、新川主査、関口活動支援員 自治創造研究所: 名和田教授、久保研究員、北野研究員
協議内容	1. 代表挨拶 2. 議 事 1) 平成20年度決算報告、監査報告 2) 各PT報告 3) (仮称)自治基本条例区民検討会議報告 4) 地域協働事業助成審査委員の選任 5) 今後の進め方について 3. 自治創造研究所との意見交換会
配布資料	平成21年度第2回落合第一地区協議会次第 平成20年度 地区協議会まちづくり活動支援補助金会計決算書 平成21年度第1回「自転車問題PT」会議概要 平成21年度第6回「安全・安心PT」会議概要 第17回 新宿区自治基本条例区民検討会議 次第 条例の基本的考え方 盛り込みたい事項とその内容 区民・議会・行政 検討項目一覧 盛り込みたい内容 (第14回各委員意見) 新宿区自治基本条例区民検討会議 開催概要 「みどりの風」第5号 2009自転車安全利用TOKYOキャンペーン 平成21年度新宿自治創造研究所案内 「地区協議会についての意見交換会」の主な内容について

1 清水代表挨拶

- 地区協議会もいよいよ活動期に入る。自転車PTが企画した「子供のための自転車教室」は、成果次第で今後の子供に対する自転車安全運転啓発キャンペーンの試金石となり得るのではないかと考えている。

2 議 事

1) 平成20年度決算報告、監査報告 (会計委員、会計監査委員)

- 詳細は前回の全体会で事務局が報告したとおり。(会計委員)
- 決算書に基づき、帳簿・通帳を確認し、金額に相違ない事を確認した。(会計監査委員)

2) 各PT報告

広報PT

- 「みどりの風」第5号を発行した。内容については各自でお読み頂きたい。

自転車PT (資料1参照)

無灯火防止啓発キャンペーン

- 5/25に第10回無灯火防止啓発キャンペーンを実施する。多くの皆さんにご協力頂きたい。
- 第11回無灯火防止啓発キャンペーンは7/23(木)。予備日は7/29(水)。

子供のための自転車教室

- 各小学校の自転車教室の実施日がでた。多くの委員にご協力いただきたい。
落一小・・・6/13(土) 14時～実施 落四小・・・6/27(土) 14時～実施

地区協まつり

- ・ 地区協まつりで、自転車製作側の講演会を行いたい。また、最新の3人乗り自転車や電動自転車の展示を行いたい。

ふるさと落合PT

- ・ DVD作成にあたり、ご協力いただける委員の方はお申し出いただきたい。DVDは今年度中に完成させたい。

安全・安心PT (資料2参照)

安全・安心プレート

- ・ 5月末日に納入されるので、6月の全体会で配付したい。団体推薦委員には、所属団体の必要枚数を確認し、事務局にご報告頂きたい。

安全・安心マップ

- ・ ピーボ110番のシールを貼っているコンビニを載せる。また、シールを貼っていないコンビニには、貼って頂けるように依頼したい。
- ・ 掲載内容については各小学校とタイアップし、生徒と一緒に調査をする。5/15(金)落四小の3年生と一緒に街歩きをする。参加できる方は13時45分までに学校に集合。

相馬坂の立て看板

現在、相馬坂に設置されているたて看板には「落一地区協議会」の名前が入れているが、今後は、設置の依頼は出来るが地区協の名前は入れられない。道路管理者となれないから、(看板の設置による事故が起きた時に、地区協議会は責任が取れないため)。

地区協まつり

- ・ 11月14日(土)に開催することを提案する。

普通救命講習会の開催

- ・ 7/10(金)14時から開催したい。テキスト代の1,400円は参加者の個人負担。

<決定事項>

ピーボ110番シールを貼ってもらえるようコンビニに依頼する事と、普通救命講習の実施について、賛成多数により承認。

3) (仮称)自治基本条例区民検討会議報告 (和田委員)

配布資料 は、各委員が其々の思いを述べたものを記載した資料である。この中の「基本的な考え方」に『区民主権』という言葉を入れたい、と個人的に考えているが、落一地区協の代表として出ている以上は、地区協議会の意思を伝えなければいけないと思っている。

又、今後、条例の中身について協議していくことになるので、落一地区協議会の皆さんから多くのご意見を頂きたい。

質問1

配布資料 をみると、議会と行政は全ての項目について協議済みで、区民検討会議のみが遅れているように思われるがどうなるか。

回答1

行政、議会ともに住民の進行を待っている状況。議会も行政も、資料の表にあるとおり項目出しはしているが、内容についてはまだ話し合っていない。

清水代表

近々に、自治基本条例のみを議題とした、全体会を開催したい。そこで、和田委員の意向を伺い、落一地区協の要望事項を話し合う。

4) 地域協働事業助成審査委員の選任

渡邊委員、平林委員、岡田委員、小野委員、川俣委員に決定

5) 今後の進め方について

定例会の日程

これまで通り、毎月第1火曜日に実施

地区協祭り PT?

各PTで地区協祭りの内容を考え、次回の全体会で提案、協議する。

地区計画

昨年度、協議したことを地区計画としてまとめているが、まだ報告出来る手はずが整っていない。手はずが整い次第報告させていただく。

委員(欠員)の補充

今期は欠員の補充はしない

ふれあいフェスタのパネルの作成 A1版縦×4枚(業者委託)

各PTで1枚ずつパネルを作成する。

歓送迎会の日程について

6/18(木) 詳細は後日連絡

3 自治創造研究所との意見交換について

配布資料 にあるとおり、自治創造研究所では、学識経験者と区の職員で、3つのテーマを掲げ研究している。

昨年からは、「新宿区における新たな住民自治のあり方」-新宿区の中で、今以上に区民の意見をよりよく区政の中に反映させていくにはどういう仕組みを作ったらいいか-を研究している。その研究にあたっては、まずは地域での町会活動、地域団体活動など、新宿区の住民自治の実態をしっかりと把握したいと思い、10地区協議会と意見交換会をさせていただく。本日お聞かせ頂いた内容については、自治基本条例を担当している部署にも報告し、区民検討会議における地区協議会の位置付けの際の資料になるように活かしていきたい。

意見1

町会、自治会への参加を避けてマンションに住む人などに、地域コミュニティへの参加を呼びかける良い方法があったら教えていただきたい。

回答1

マンションでは特に、1Rマンションの方が地域と接触を持ちたがらない。また、地域のルールについて、うまく折り合いをつけてもらえない事が多い。そのような問題に対して、他市では条例を作って対応している。

例、マンション住民の町会費を通常の半額にし、町会に加入するきっかけづくりをする。

このように、マンション住民と、周囲の町会の人々が一緒に融合し合うような仕組みを条例で仕組んでいくやり方をするのも一つの方法である。

意見2

現在、地区協議会では地区計画について協議している。そこでは、緑化を進めようという事で、毎月、地区計画課とコンサルから緻密な地区計画面案が提案されていた。この会議での話しは、地区協議会委員だけではなく、地域住民にも是非とも聞いて頂きたいものである。地区計画を進める中で、一つ懸念しているのは、各個人宅の緑比率のパーセンテージを上げすぎると、様々な問題から土地を持ち続ける事が難しくなり、手放す事に繋がり、最後にはその土地がマンションになってしまうのではないかと、という事。この点については、充分注意して地区計画を策定して頂きたい。

また、マンションでは其々に管理組合があり、マンション自治会の構成組織が出来ている。それは、マンション内だけのコミュニティであり、地域コミュニティとの分断に繋がると思う。

意見3

地区協議会に参加する理由。

地区協議会は情報収集の場であり、所属団体の事を発信する場でもある。地区協議会の中では、地域の事も、所属団体の活動と共通する話題も出てくる。また、各PT活動を通じて様々な事が学べる。地区協議会で話し合った事はそこで終るのではなく、所属団体に報告もしているが、もっと地域の方々に地区協議会の事を知ってもらいたいと思う。地区協まつりでそれが出来るのではないかと期待している。自分達が普段参加している町会や活動団体を超えて、様々な情報交換が出来たり、活動ができる。また、自分の所属団体以外のもっと古いことも新しいことも知る事ができるのが地区協議会だと思って参加している。

意見4

マンションの方が近所付き合いしないのは、戦後、個人でやる事は自由が良い事、都会は個人が自由、近所付き合いは面倒くさい、という風潮があるからだと思う。それが影響し、町会、

自治会に参加しない人が増えていると思う。従って、そのような自治会とは違う、地区協議会のような存在は良いと思うが、その地区協議会に参加するメリットが明確ではない。それが明確になれば参加する人も多くなると思う。名和田教授は、ドイツを研究対象としておるが、ドイツではその様な事はどうなっているのか。

意見5

日本は労働時間が長すぎると言われる。その為に、働く人がこのような場所に来られないのではないか？ドイツではその辺りはどうなっているのか。

回答4、5

ヨーロッパでは、マンションのような高層な住み方は一般的ではない。高層住宅はほぼ例外なく公営住宅であり、そこには、外国人比率が半分以上だったり、生活保護世帯、アルコール中毒者が居住していたりと、特殊な社会問題がある。

ドイツは福祉国家体制であり、住民がボランティアを頑張らなくても行政が殆どのサービスを行う、という事があり、町会や自治会がない。ドイツは政党組織が発展しているので、法律で地区協議会のような仕組みを作り、政党の比例名簿に基づいて委員を投票で決めている。従って、正式な決定権を持っており、権限の強い仕組みになっている。

日本と比較すると、日本は町会を始め、住民が住民自身の仕事のある程度していくという良い点で、進んでいると思う。一方で、ドイツでの地域の親睦的な雰囲気は学ぶべきところが多い。高齢者や障害者には自然に手を貸し、列に並ぶ時には挨拶をするなどの親睦的秩序の作り方は自然でしっかりしている。また、労働時間の問題は非常に大きい。ドイツでは16時には帰宅しており、18時頃から地区協議会のような会議が始まる。

意見6

みんなそれぞれに地域の中で、各団体に活動しているが、段々と顔が見えなくなっている。コミュニティが崩壊しつつあると感じてはいるが、どうすれば良いかの答えが見えない。その答えを作る為にこのような機会を増やしていきたい思いはあるが、会合が非常に多く、全てに参加する事が出来ない。これに関して、効率の良い舵取りをどこがやっていくのか期待したい。

意見7

地域自治に関しては、まず住民の参加と協働が出発点ではないかと思う。参加と協働の根本的な違いはなにか？

回答7

協働は、実際に住民が時間や労力、お金を使い、自分自身が汗をかき、行政や他団体と一緒に何かを為すこと。参加は、ある事を決定する時に関わっていること。

意見8

近所との付き合いが希薄なマンションに引っ越してきたが、徐々に地域との繋がりが大切だと思ふようになり地区協議会に参加した。地区協議会に参加して、地域の方々の顔が分かるようになり、地域に愛着を持つようになった。マンション内でのコミュニティはあるが、地域と繋がっていかねばならないと思う。また、本来であれば、行政や議会の方が活動してくれれば、このように30数名が夜遅くに集まる必要はない。その費用対効果を考え、研究の成果を反映させて頂きたい。

意見9

阪神大震災の後、マンション住民で町会に加入していない人がいる事を不安に思った。震災時などのいざという時に、お互いが分からないのは不安だという人がどんどん増えていくと思う。いざという時に地域全体で助け合えるという事が重要。

意見10

自治創造研究所は昨年の4月にできているが、ここ1年の間どのような事を研究してきたのか？また、何故、1年過ぎたこのタイミングで意見交換会に来たのか？

回答10

テーマ「基礎自治体としての新宿区の今後のあり方について」の研究。東京都の23区の区域内では、普通の市町村が持っているような、都市計画を決定する権限や、上下水道、消防などを含め、基礎自治体を持つ機能を東京都が担うと法律上明記されている。その為に東京都と特別区は役割分担をする関係になっている。このままで良いのか、なぜ市町村と違いこのような制度になっているのか、今後もこのままでいいのか、という事を1年間研究してきた。

テーマ「新宿区における新たな住民自治のあり方について」では、地区協議会の成り立ち、町会・自治会との関係、地区協議会のような地域横断的な組織がうまく機能するようになる仕組みはどのようなものが考えられるかを研究してきた。

また、何故今頃意見交換会をするかというのは、昨年11月に所長会に意見交換会を行いたい旨を打診していたが、各地区協議会との日程調整に時間がかかりこの時期になった。

意見11

自治創造研究所は、区長の政策立案の為に組織なのか？また、自治創造研究所と自治基本条例との関係、議会との関係、地区協議会との関係は？

回答11

早急に区がやらなければならない研究というよりは、少し離れたところから自由に議論をし、研究をし、すぐに実現できないような提言も含め区長に報告する。その提言をどのように受け止め、どこまで実際の政策に織り込むかは区長や企画政策部が判断する。

自治創造研究所は、直接的に自治基本条例を策定するようなセクションではない。しかし、今年一番のテーマとしては、地区協議会の性質や、仕組みを考え、新宿区民にとって一番良い形で地区協議会を仮に条例で位置づけるとしたら、このような事が考えられる、というようなものを提言の中に盛り込みたい。間接的には提言を反映させてもらうようになっていると思っている。議会との関係は、議会に提言するのではなく、区長に提言し、区長部局や企画政策部などが、議会に予算をつけた形で提言をし、議会の決定を頂くという関係になる。

地区協議会との関係というと、自治創造研究所では、地区協議会の今後のあり方などを中心に考えて行きたい。各地区協議会で伺った皆さんの生の声を活かしながら提言をまとめたいと思っている。